

《ミツバチコラム》 始めます



イラスト
バイオ環境学部4回生
林利樹さん

中京区役所が京都学園大学・区民ボランティアス
タッフと共に昨年10月末から取り組んでいる「京都
みつばちガーデン推進プロジェクト」。区役所の屋
上庭園でニホンミツバチを飼育し、環境指標生物で
あるミツバチとの「共生」という視点から緑化を呼び
かけ、緑豊かなまちを目指す取り組みです。

そんな「京都みつばちガーデン推進プロジェクト」
と、ニホンミツバチについて知っていただくため、
「ハチ」月から毎月、当プロジェクトでご指導いただ
いている京都学園大学の坂本文夫教授により、ま
す、コラムを掲載していきます。

「緑化」＝ミツバチを思う気持ち

京都学園大学バイオ環境学部

坂本文夫教授

ミツバチが生産する蜂蜜やローヤルゼリーなどの価値
に比べ、ミツバチによる花粉交配の価値は何十倍も大
きいと言われています。ミツバチによる花粉交配が最も利
用されているのはイチゴのハウス栽培ですが、メロン、
サクランボ、スイカなどにも広く利用されています。近
年、花粉交配にミツバチが欠かせない存在であることは、
世間でも広く知られるようになりました。

それでは「緑化」へのミツバチの貢献はどうでしょう。
果実がなる草木の花粉交配が上手くいけば、立派な果実
が実り、その草木も元気であると思われませんが、草木が
生い茂ることに必ずしも結びつきません。

ミツバチが住む環境での「緑化」で大事なことは、私た
ち人間が、おいしい花蜜を蓄える植物をたくさん育てる
ことだと思えます。特に、都市部においては、ベランダ
のプランター、庭の片隅、屋上庭園、壁面などにミツバ
チが好む花や木を植え、都市養蜂に適した環境を整えて
やるのが「緑化」につながると思います。「緑化」を推進
するのはミツバチではなく、ミツバチを大切に思う私た
ちの気持ちなのです。これが「京都みつばちガーデン推
進プロジェクト」の目指すものだと理解しています。